



2007年6月10日発行

待望の地下スタジオ完成:
ゲストに
アーサー・シーリー氏
(太平洋放送協会
元支配人)



HCJBオーストラリアから日本語放送が再開されて満一年。待望の地下室スタジオ(約3坪)が完成了しました。家族全員が週末に力をあわせての手づくりです。重い建築材料を運びこみ、柱や棟木で外枠をつくり、天井と壁には防音材をはめ込み、窓ガラスも二重にして、外板をめぐらし、最後に空色のペンキを塗って仕上げました。その新設スタジオに、ゲスト第1号として、太平洋放送協会元支配人のシーリー氏をお迎えすることができました。

尾崎: シーリーさんは、シカゴにおられたことがあるんですね。

シーリー: はい、戦前ですが、聖書学校で学んでいたことがあります。その後太平洋戦争で従軍し、中国大陸で通信兵として1年3ヶ月にわたって日本軍と戦いました。

尾崎: その敵対関係から変えられたのは、同じ神様のもとではお互いに交わる道があることをシーリーさんが知ったからですね。

シーリー: わたしは大正生まれで、育ちは北米シアトル郊外の農家で、これという望みももたずに過ごしていました。ところが、神と出会い、使命を与えられてからは信じられないことが起こりました。日本人に対する偏見も消えて、30数年間も日本で宣教師として働くなどとは、いま考へても不思議なことです。

尾崎: シーリーさんの働きは日本における放送伝道の草分けでした。

シーリー: 今では、太平洋放送協会のラジオ福音番組は日本全国できかれるようになり、テレビ番組「ライフライン」も加わりました。遠く南米にも尾崎宣教師をやって HCJBから世界に向けての宣教放送ができるようになるなどとは考えも及ぼませんでした。

尾崎: あれは1963年6月でした。羽田空港にたくさんの人が集まり空港の貴賓室で壮行会をしました。「頑張ってこいよ」と言われても、自分に何ができるのかがわからず小さくなっていました。怖くて。すごく不安でした。

シーリー: 自分でできるという思いだと、自分にたよりますが、自分は足りないと思えば、その分だけ神様が働いてくださるのです。

尾崎: まさにその通りでした。

シーリー: じつは、昨日はとなりのインディアナ州で孫娘の結婚式があったのです。彼女は東京生まれの東京育ち、相手はアメリカの田舎育ちの若者、まったく環境の違うふたりですが、その出会いは神様がなさったことを信じています。違っていても、足りなくても、ふたりが神様と歩んでくれれば幸せになれると思います。

尾崎: 子供さんは何人おられるのですか。

シーリー: 現在3人は日本に住んでいます。2人は宣教師になりました。もうひとりは日本の大学教授と結婚しました。今度結婚した孫娘の父親は太平洋放送協会の番組制作スタッフです。

- 尾崎：長い間伝道された日本からは、離れることはできないでしょう。
- シーリー：北米に住むのはいいのですが、カレーライスはおいしくないし、お風呂にも入れない。大相撲も大好きなので日本での滞在が楽しみです。今年は秋か、来年早々に出かけます。
- 尾崎：「あれあれ、シーリーさん、どうしてここに」という出会いが、またあるかも知れませんね。どうもありがとうございました。

(この対談は2007年6月9日に放送された番組の一部再録です。)

HCJB日本語放送担当

在室 尾崎一夫

HCJB日本語放送(オーストラリア送信)：

放送日時：毎週土曜日、日曜日
日本時間 0730 – 0800 (2230 – 2300UTC)
送信周波数：15525 kHz (19mb)
受信報告書の宛先：〒169-0073
東京都新宿区百人町1-17-8
淀橋教会HCJB係
(※返信用に80円切手を2枚同封して下さい)

【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://japanese.hcjb.org/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム」(<http://japanese.hcjb.org/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり」(<http://www.hcjb.org/japanese/mmz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。



Copyright © 2007 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://japanese.hcjb.org/>

Eメール: kozaki@hcjb.org

郵便の宛先:

Mr. Kazuo Ozaki

1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.
